

熊本県民の海外旅行に関する意向調査

はじめに

コロナ禍からの経済活動再開により、我が国の2023年10月単月のインバウンド（訪日客）数は約250万人と、19年同月比で4年ぶりのプラスに転じた。一方、アウトバウンド（邦人海外旅行客）は約90万人で同年同月比の56%と、インバウンドとアウトバウンドの回復状況は大きく異なっている。

そこで本稿では、県民を対象に実施した海外旅行に関する調査結果をもとに、海外旅行の意欲や阿蘇くまもと空港（以下、熊本空港）の利用など海外旅行に関する意向をまとめた。

【調査の概要】

1. 調査対象：
熊本県在住の20歳以上の男女
※20代男性の不足分は、年代の近い30～40代にて補完
2. 調査期間：
2023年11月2日(木)～11月7日(火)
3. 調査方法：
調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：
㈱マクロミル）
4. 有効回答：1040人

【回答者の属性】

年代	実数(人)		構成比(%)	
	男性	女性	男性	女性
20代	53	104	10.2	20.0
30代	137	104	26.3	20.0
40代	122	104	23.5	20.0
50代	104	104	20.0	20.0
60代以上	104	104	20.0	20.0
合計	520	520	100.0	100.0

1 九州内主要空港の国際定期便の利用状況

➤ 日韓関係の悪化やコロナ禍などで一時的に減少した国際定期便の利用者数は、順調に回復しつつある。

九州内の国際定期便（以下、定期便）の就航数や出入国者数のトレンドは、2018年を境に大きく変化した（図表1）。18年までは定期便、出入国者数はともに増加傾向にあったが、19年の日韓関係悪化やコロナ禍などが影響し、定期便数、出入国者数ともに一時的に減少した。

その後、コロナの5類移行を受け、特に外国人入国者数は急激に増加し、2023年11月までの累計で福岡空港では18年比99%、熊本空港では同67%まで回復している。

図表1 九州（沖縄を除く）各県の主要空港の定期便数と出入国者数

※上段：定期便数（週次） 中段：日本人出国者数（人） 下段：外国人入国者数（人）

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023/(2018比)	
熊本	5	6	14	10	0	0	0	13	96%
	3,108	6,232	11,518	10,889	528	0	0	6,253	54%
	20,470	51,077	85,305	73,757	4,750	0	56	56,752	67%
福岡	318	337	371	337	7	8	110	341	92%
	858,479	881,056	997,935	1,051,830	151,563	3,546	83,608	493,408	49%
	1,631,702	2,205,616	2,414,946	2,141,956	267,934	6,104	401,011	2,396,057	99%
北九州	1	13	22	23	0	0	0	4	19%
	1,135	10,712	23,574	30,787	3,035	0	7	4,441	19%
	16,573	126,211	139,071	120,388	9,854	0	1	31,862	23%
佐賀	6	8	12	15	0	0	0	4	33%
	8,056	8,814	10,940	12,891	724	0	0	1,404	13%
	38,314	78,767	93,782	88,390	5,851	0	0	19,150	20%
長崎	4	7	5	5	0	0	0	1	20%
	2,379	4,140	5,833	5,391	196	0	0	60	1%
	10,543	24,621	24,995	37,471	2,623	0	49	152	1%
大分	4	7	7	7	0	0	0	2	29%
	1,930	2,862	5,390	5,674	0	0	0	1,227	23%
	30,879	58,362	61,036	48,155	25	0	0	9,955	16%
宮崎	7	7	11	7	0	0	0	2	19%
	8,965	8,445	12,129	11,632	1,576	0	0	848	7%
	36,965	39,797	59,049	36,771	4,995	0	425	7,571	13%
鹿児島	15	21	30	27	0	0	0	3	10%
	17,362	20,302	29,157	33,627	2,513	0	0	1,143	4%
	83,312	126,002	168,194	176,522	20,781	0	3	21,821	13%

※ 2023年の出入国者数は1～11月の合計。定期便数は夏ダイヤと冬ダイヤの平均。

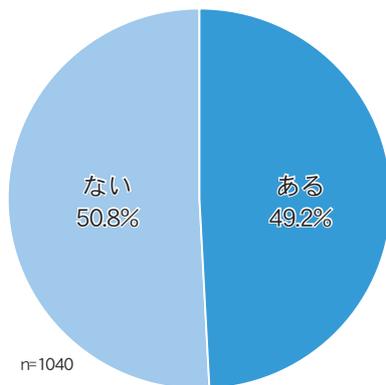
資料：国土交通省「九州への外国人入国者の推移について」、「国際線就航状況」、法務省「出入国統計」をもとに当研究所作成

2 海外旅行に関する県民の意向

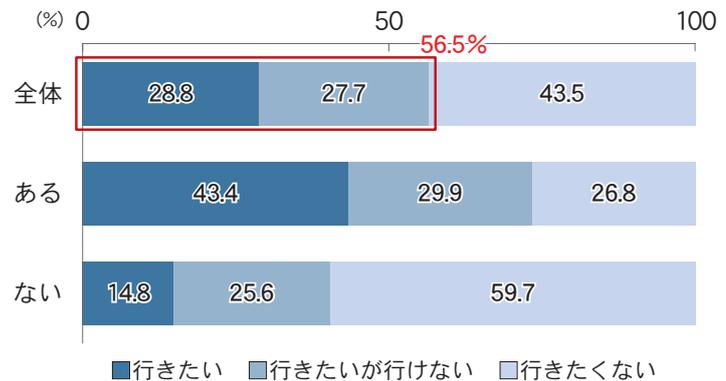
- 海外旅行に「行きたい」（「行きたいが行けない」含む）とする回答は5割超。
- 海外旅行経験にかかわらず、20代は今後海外旅行に「行きたい」とする割合が他の年代と比べて高く、アウトバウンド増加に向けてメインターゲットとなり得る。

これまでの海外旅行の経験は、「ある」が49.2%、「ない」が50.8%でほぼ同数となった（図表2）。また、今後の意欲については、「行きたい」と「行きたいが行けない」の合計（以下、『意欲がある』）は56.5%と過半数となっている（図表3）。

図表2 海外旅行の経験



図表3 今後の意欲



次に、年代別でみると、旅行経験の有無にかかわらず20代に特徴があらわれている（図表4）。

旅行経験のある20代のうち、『意欲がある』の割合は全年代の中で唯一9割超となっている。また、旅行経験のない20代も、『意欲がある』とする割合は5割超となっている。旅行経験の有無にかかわらず、20代は他の年代と比べ海外旅行への意欲が高いことがうかがえ、アウトバウンド増加に向けたメインターゲットになるものと考えられる。

また、旅行経験のある30代以上でも、今後旅行に「行きたい」とする割合は6～7割となっており、海外旅行の意欲が高いことがうかがえる。

図表4 旅行経験別にみる今後の意欲（年代別）

以降は会員専用ページにて公開しております。
 ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
 アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)
 (入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)